

2022 年度診断評価等基準委員会 第 4 回委員会 議事録

開催日時：2022 年 10 月 6 日（木）19 時 00 分～20 時 00 分

開催場所：Web 開催

出席者（敬称略）：筑田博隆、高橋淳、大和雄、安藤圭、福井充、河村直洋、
寒竹司、飯塚陽一、関口美穂、加藤壯、金山雅弘、高見正成、本郷道生、川上
守、橋爪洋、渡辺慶、高橋真治、池上章太

欠席者（敬称略）：紺野慎一

議題

1. 筑田理事の挨拶
2. 新規委員（渡辺慶先生、高橋真治先生）の挨拶
3. 研究計画書の説明 議論

- ・ 成人脊柱変形に対する包括的新評価票作成に向けた多施設前向き研究（プロジェクトリーダー：大和委員）

プロジェクトリーダーより説明があり、具体的な研究の進め方、まとめ方に際し議論がなされた。

研究計画としては、3段階（①質問項目の作成、②適切な質問項目の抽出と新質問票の作成、③新質問票の有用性・妥当性の検証）の順で研究を進める。対象は①については ASD 術前後患者（40-79 歳）、②については①に加え健常者（上肢疾患患者で腰痛がない者を想定）、③については①と同様。質問票はいくつかのドメインに分かれているものを想定（案：日常生活動作、痛み、臓器障害、心理面、整容面、不撓性）。研究①に先立ち、JSSR で一括審査をまず行い、ワーキンググループの施設で研究を行う。その後研究②、③の審査を研究の進捗に沿って順に行っていき、委員会+ α の施設で研究を行っていく。研究期間は①は半年程度、②、③はそれぞれ2年程度を想定。

研究計画については、概ね各委員の支持を得た。議論は術後患者を含めるべきかの点と、健常者の取扱いについて（質問項目、健常者設定についての X 線撮影の点から骨粗鬆症などはどうか、等）が中心となり、こちらについてはワーキンググループで相談して進めることになった。

- ・ 胸髄症におけるアウトカム評価法の検証(プロジェクトリーダー:加藤委員)

プロジェクトリーダーより説明があり、具体的な研究の進め方、まとめ方に際し議論がなされた。

胸髄症のアウトカム評価は頸椎 JOA スコアから上肢分を除いたものでされている事が多かった。ただし胸髄症についての妥当性、信頼性は検証されていない。また、患者立脚型評価として胸髄症特異的評価法は存在しない。研究の内容は胸髄症の脊髄症評価に慣例的に用いられてきた JOA スコア、mJOA スコアの信頼性・妥当性・反応性を検証することであり、頸髄症に関しての自記式質問票である JOACMEQ が胸髄症評価に使えるかについても検証する。多施設研究で 20 歳以上の胸髄レベルの圧迫性脊髄症患者を対象とし、2 年ぐらいのタイムスケジュールで 1 つ結果を出す予定。

研究計画については、概ね各委員の支持を得た。

- ・ 次回委員会日程について (高橋委員長)

第 5 回 2023 年 1 月半ば